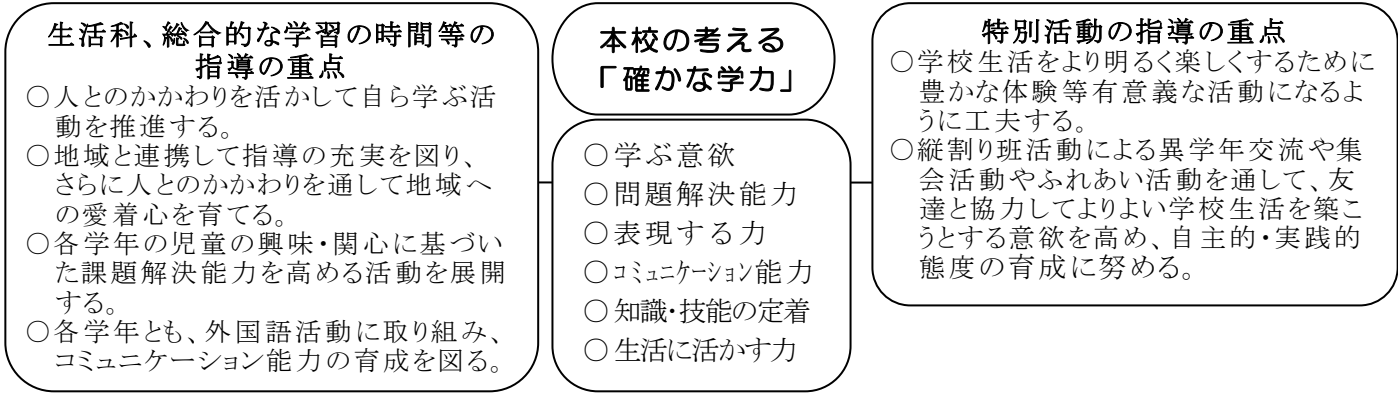
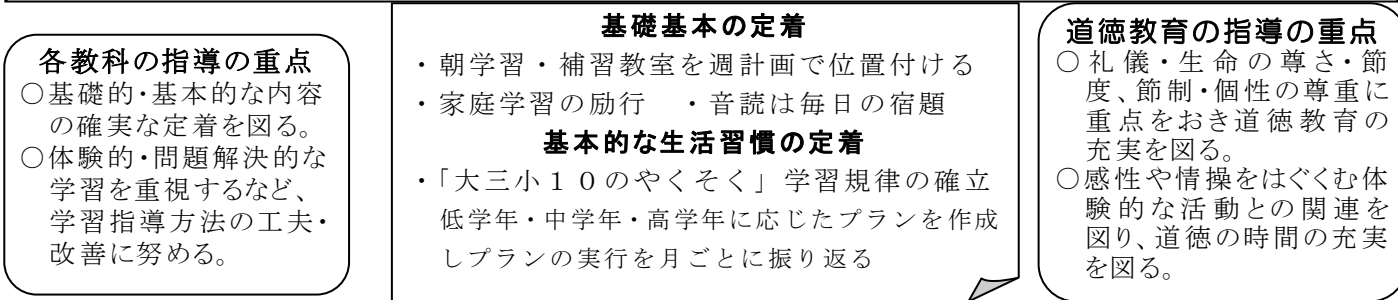


**学校経営方針(学力向上にかかわる要点)**  
～「わかる・できる・つかえる」知恵と能力の育成～  
○授業改善推進プランの実施を徹底し、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着と思考力、判断力、表現力を育成する指導の充実を図る。



**生活指導の重点**  
○全職員の共通理解で指導にのぞむ   ○基本的な生活習慣の徹底   ○規範意識の向上  
○安全意識の向上                           ○環境に配慮する子供を育てる

**本校の授業改善の視点**

指導内容・方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> <li>* 問題解決的な学習や体験的な学習を重視し、児童の主體的な活動を引き出す指導法を工夫する。</li> <li>* 地域を活かした教材を用いたり、外部講師を招聘したりする授業を多く取り入れる。</li> <li>* 児童の習熟の程度や興味・関心等に応じた個別指導と少人数指導を推進する。</li> <li>* 各教科を通して、自分の思いや考えを深め、適切に表現する能力の育成を図る。</li> <li>* 生活に活かせる国語力の向上を図る。言葉や語彙の指導に重点を置く。</li> <li>* 大田区漢字検定を活用し、漢字の習得を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 授業時間を確保し補助的な指導で基礎基本の定着、学ぶ意欲、表現力、思考力を培う。</li> <li>* 読み聞かせ、読書活動を計画的に取り入れ、豊かな感性の育成や知識と読書習慣の定着を図る。</li> <li>* 週ごとの指導計画による計画的な指導の完全実施と時数確保に努める。</li> <li>* 補習教室(放課後・土曜日)を実施し学力の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 地域の人材・病院等関係機関と連携を図りながら、健康教育に取り組む。各学年1回の研究授業の他に、健康教育に特化したカリキュラムの編成を行う。</li> <li>* 特別支援教育に関する研修を実施し、ユニバーサルデザインに基づいた授業設計を推進する。</li> <li>* 教育相談研修や校内指導体制の充実により、児童理解の深化を図り、学習支援能力の伸長を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 学習指導要領を踏まえ、年間指導計画に基づく、評価規準・評価計画の改善・活用を図る。</li> <li>* 校内研究の地域教育連絡協議会への公開や学校公開等の参観を通して外部評価を受け、改善に活かす。</li> <li>* 評価結果の公開や改善策について学校だよりやホームページ等で情報公開する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 学校支援地域本部(スクールサポートおおさん)の協力を得て、地域の人材を活用した授業やわくわくスクールを推進する。</li> <li>* 基本的な生活習慣や家庭での過ごし方(生活リズム・家庭学習等)の定着のために、より密接な家庭や地域との連携を図る。</li> <li>* 区・PTA・地域行事等において児童の活動発表を積極的に推進する。</li> <li>* 保・幼・小・中の情報交換や交流活動を深める。</li> </ul>

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・漢字の読み書きの力、言葉の使い方に関する力は伸びてきている。
- ・物語や説明文を読み取る力が概ね定着している。

(2) 課題

- ・文の構成（主語、述語、修飾語、指示語）の理解が不十分であり、作文の場面で活用できていない。
- ・構成を意識して書いたり、条件に合わせて書いたりする力を伸ばす必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第4学年	目標値よりやや高い 区平均正答率より低い 全国平均正答率より低い		
第5学年	目標値より高い 区平均正答率より高い 全国平均正答率より高い	目標値より高い 区平均正答率よりやや高い 全国平均正答率より高い (第4学年時)	
第6学年	目標値より高い 区平均正答率より高い 全国平均正答率より高い	目標値よりと同等程度 区平均正答率より低い 全国平均正答率よりも低い (第5学年時)	目標値よりも低い 区平均正答率より低い 全国平均正答率よりも低い (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・漢字の読み書き、ローマ字の読みの力は定着している。文章表現に必要な知識・技能には課題がある。特に、段落の役割についての理解と、指定された段落で書く技能の向上が必要である。	・話の中心に気を付けて聞く力、叙述を基に物語や説明文の内容を読み取る力は身に付いている。文章表現力に課題がある。特に、考えと事例を明確に区別して書く力、指定された長さで書く力の向上が必要である。	・目標値を満たす児童の割合が低い。また、個人差も大きく、知識・技能、思考・判断・表現といった他の力との関連性も大きい。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・漢字の読み書きの力は定着している。言葉の力（語彙、修飾語のはたらき）、段落の役割を理解して2段落構成で書く力はやや不十分である。	・叙述や描写を基に文章を読み取る力は定着している。話し合いをもとに自分の考えをまとめる力、内容を報告する文章を書く力に課題がある。	・個人差が非常に大きい。主体性の度合いと、知識・技能、思考・判断・表現といった他の力との関連性も大きい。

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### （1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手や目的に合わせて話すことができるように、必要な言葉を確認してから話す活動に取り組むようにする。</li> <li>・文章を書く時には、ICTを活用し書き方を分かりやすく指導する。</li> <li>・教科書の文を丁寧に読ませ、言葉や表現に着目させ、読み方の基本を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひらがなや漢字の学習で多くの言葉を取り上げて触れさせ、自分の力で文を考えて書くことを繰り返す。</li> <li>・作文や文字の学習で、副教材「書くって楽しいね」を活用する。</li> <li>・MIMを活用し、拗音や促音・撥音の表記や助詞の使い方の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「話す・聞く、書く、読む」の基本を丁寧に確認しながら、繰り返し指導をする。</li> <li>・ペア等の少人数で活動させたり、教師の手本を示したりすることで自信をもって言語活動に取り組めるようにする。</li> <li>・司書教諭と連携して読書活動を行い、読書量を増やす。</li> </ul>

#### （2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明文の学習時に段落構成図を書く活動を取り入れて、段落の役割についての理解を定着させる。</li> <li>・日記を書く活動や作文の学習時に、段落構成を指定し、条件に合わせて文章を書く経験を積ませる。</li> <li>・作文の学習では、構成表を作成し、各段落の役割の理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明文の学習で、筆者の考えとそれを支える事例を色別するなどし、それらのつながり方や表現の特徴をつかませる。</li> <li>・自分の考えとそれを支える事例が含まれた短作文作りに取り組ませ、段落や文の数を徐々に増やしていく指導を行う。</li> <li>・作文の学習や学期末などに、副教材「書くって楽しいね」を活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見交流の場をタブレット内に設けたり、ペアワーク、グループワークを取り入れたりと、友達との交流の場を多く設定する。</li> <li>・書く学習では、身近な生活や空想の世界等を題材にした活動を取り入れ、書く意欲を高める。</li> <li>・司書教諭と協力して、単元で活用できる資料や本を集める。</li> </ul>

#### （3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の「言葉」の学習で学んだことを、作文の時間に活用させ、繰り返し学ぶ時間を設定する。</li> <li>・教科書巻末の付録（言葉の宝箱等）を、授業で活用する機会を増やす。</li> <li>・作文の学習時だけでなく、他教科で学習感想等を書く機会も活用し、指定された段落構成で書く、段落構成を自分で考え、それに対応させながら書く活動を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの学習で、複数の意見を比較して共通点や相違点を見つける。また、賛成、反対等の立場を明確にして考えを述べる機会を作る。</li> <li>・説明文の読み取りや作文の学習で、文章全体の構成表に対応させながら読んだり書いたりさせる。</li> <li>・作文の学習や学期末などに、副教材「書くって楽しいね」を活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活との関連付けを行い、学習を身近に感じられるようにする。</li> <li>・自分の課題や学習の達成状況を可視化するなどして、意欲的に目標をもって取り組めるようにする。</li> <li>・既習事項を活用する場面ではゲーム性の要素を取り入れるなどし、活用する楽しさを感じられるような工夫を行う。</li> <li>・司書教諭と連携して様々なジャンルの本を紹介し、読書の幅を広げる。</li> </ul>

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・表やグラフなどの資料を活用して、読み取ったり、調べたり、まとめたりすることができる児童が増えた。
- ・タブレットを用いて調べ学習を行うことで社会科に対する意欲・関心を維持し、学習内容の理解をすすめることができた。

(2) 課題

- ・資料の内容を正しく読み取り、複数の資料を比較したり、関連付けたりして資料を総合的に読み取る力が低い。
- ・大事な言葉やキーワードを正しく理解し、学習問題を思考することに個人差がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第4学年	目標値よりも低い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い		
第5学年	目標値と同等程度 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率と同等程度	目標値と同等程度 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い (第4学年時)	
第6学年	目標値よりも高い 全国平均正答率と同等程度 区平均正答率よりも高い	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い (第5学年時)	目標値よりも若干低い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標値よりも低くなっている。記号や用語等の基礎的な知識が身に付いていないことが、資料を正しく読み取れない要因となっている。各単元でおさえるべき知識の習得を確実にする必要がある。	・目標値よりも低い。社会的な事象に着目して、調べたことを比較・分類、または関連付けて考えたり、考えたことを言葉で表現したりすることができないことが要因となっている。	・目標値と同等程度であり、社会科の学習に対して意欲をもって取り組んでいるといえる。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・昨年度より平均正答率は上がっている。しかし、学年が上がるにつれて、学習したことの定着が難しくなってきた。社会的な事象を表す用語や意味を理解させ、身近な事象と関連させ定着させる必要がある。</p>	<p>・工業生産と貿易についてさかんな地域の特色や背景を捉える問題の正答率が低かった。資料を読み取り判断する問題や、社会的事象の特徴をとらえて記述するための思考力の習得を確実にしていく必要がある。</p>	<p>・地図の縮尺の理解をもとに距離を読み取る問題の正答率が低かった。地図を読んで活用する力を習得できるよう日頃から地図に親しむ態度を養う必要がある。</p>

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・地図帳やフラッシュカード等を活用して、地図記号や方位、23区や47都道府県名を繰り返し指導して、知識の定着を図る。</p> <p>・調べ学習では、教科書を中心に資料の活用の仕方を繰り返し指導し、資料活用の技能を向上させる。</p>	<p>・学習問題に対する自分の考えや資料から読み取ったことなどを自分の言葉で表現できるようにしていく。そのために、個人で考える時間を十分に確保した後、集団で話し合い学び合うといった思考が深まるような学習形態を工夫する。</p>	<p>・ICT機器を活用し、資料提示を工夫する。体験的な活動を取り入れ、児童が意欲をもって学習に取り組めるようにする。</p> <p>・自分事として捉え、自分たちには何ができるのかを選択・判断することを通して、主体的にかかわっていく態度を養う。</p>

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・ICT機器を用いて自ら調べ、自らまとめる活動を通して理解を深め、学んだことを映像や画像と結びつけることで身近な事象として知識の定着を図っていく。</p> <p>・白地図などのワークシートを用いて繰り返し学習し、知識の定着を図る。</p>	<p>・社会科用語や単元の重要語句を使って、自分の言葉でまとめる活動を多く取り入れていく。</p> <p>・複数の資料を関連付けて、社会的事象について記述する学習を充実させることで、問題解決的な思考を養う。</p>	<p>・ICT機器を活用し、調べ学習を多く取り入れ、生活と関連付けて児童に身近な問題として捉えられるようにする。</p> <p>・学習問題に対して児童が見通しをもち、問題解決的な学習に臨めるように教材の提示の仕方や発問を工夫していく。</p>

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・どの学年の正答率も目標値を上回り、基本的な内容が定着している。また、問題の内容別に見ても、半分以上が目標値を上回っている。
- ・家庭学習や授業中にタブレットドリル等で復習を行うことで、学力の定着につなげることができている。

(2) 課題

- ・基礎的な内容の定着はみられるが、活用する力が高まらない。
- ・筆算や暗算の過程で、計算ミスをしてしまう傾向がある。
- ・文章や図を読み取って正しい式に表すことに課題がある。
- ・文章を読み取れなかったり見落としたりしてしまい、問題を正しく把握することに課題がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第4学年	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い		
第5学年	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも高い 区平均正答率よりも高い	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも高い 区平均正答率よりも高い（第4学年時）	
第6学年	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも高い 区平均正答率よりも高い（第5学年時）	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い （第4学年時）

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値よりも全体的にやや高い結果となったが、「たし算・ひき算」の計算、「長さ・重さ」の単位の推察は、他の問題と比べると目標値を大きく下回った。</li> <li>・繰上りの処理や長さや重さの単位を誤って理解をしている児童が少なくないため、改善する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値よりも全体的にやや高い結果となったが、「わり算」の文章問題におけるあまりの処理に関して目標値を大きく下回った。</li> <li>・問題の把握が不十分で正しく答えられない場合が多いため、問題を把握する力を育てていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値よりも全体的にやや高い結果となった。概ね良好であるが、計算ミスからの不正解が多く、意欲の低下につながっていると考えられるため、計算の確実性を上げていく必要がある。</li> </ul>

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値に対し、5年、6年ともに上回る結果となった。</li> <li>・5年は「角の大きさ」の正答率が目標値を下回った。面積や角の大きさを量感が身につけていない児童が多く、改善する必要がある。</li> <li>・6年は「小数の計算」「割合」「立体と体積」の問題の正答率が目標値を下回った。計算の正確さや小数の積の点の位置の移動について理解が不足しているため、改善していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値に対し、5年が上回り、6年がやや下回る結果となった。</li> <li>・5年の結果は概ね良好で、特に「折れ線グラフと表」の正答率が全国の正答率と比べてもよくできている。</li> <li>・6年は「多角形と円・合同」「割合」の問題の正答率が目標値を大きく下回った。図形を想像する力や図形の性質についての理解が不十分である。また、百分率の理解や言葉での説明の力が不十分のため、改善していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値に対し、5年が上回り、6年がやや下回る結果となった。</li> <li>・量感を養ったり、比べたり活用したりする経験が不足しているため、改善していく必要がある。</li> </ul>

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・1 dL、1 cm がどれくらいなのかなどを、具体物を操作して確かめる機会をもつ。その際、できる限り実生活と結び付けることで、数量に関するイメージをもたせ、理解につなげられる指導を行っていく。</li> <li>・中学年の学習にスムーズに入れるよう、繰り上がりのたし算の筆算、繰り下がりのひき算の筆算、かけ算九九の練習を繰り返し行い定着させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の読み取りが苦手な文章問題の立式が難しい児童がいる。問われている箇所に線を引いたり、図をかいたりしてから式を立てるようにする。</li> <li>・筆算の仕方などについて、形式的な手続きの理解に偏らないよう、ブロックなどを活用して思考力を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発問時におけるデジタル教科書の活用や、算数的な活動を計画し、具体物を用いて学習を進めるなど、児童の興味・関心を高める工夫を凝らした授業展開をしていく。</li> </ul>

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・「たし算・ひき算」では繰り上がり、繰り下がりを書かずに計算ミスをしてしまう児童もいるため、必ず計算の過程を書くことを徹底する。</p> <p>・九九の定着が不十分な児童がおり、わり算に関しても苦手意識をもっている。授業や朝学習、宿題などを通して、九九を含めた計算の反復練習をしていくことで定着を図る。また、わり算について、具体物を用いた指導を行い理解につなげやすくしたり、かけ算を使って求めることなどを適宜確認したりする。</p> <p>・「長さ・重さ」は日常生活の中でも活用する機会を設け、それを教材として繰り返し指導していく。</p>	<p>・かけ算に限らず、問題解決の場面を多く設定することで、問題把握の力を養っていく。</p> <p>・「あまりのあるわり算」は、具体物を操作するだけでなく、問題文を読んで自分で図に表すなど、自力解決の方法を指導していく。</p> <p>・「時こくと時間」は、日常生活の中で意識させることで慣れるようにしていき、授業に実際の生活場面を取り入れるようにしていく。</p>	<p>・繰り上がりや繰り下がりのあるたし算やひき算など、低学年の内容にも取り組む時間を、短時間でも定期的に朝学習に取り入れていく。継続していくことで、より正確に計算できるようにし、自信を育てていく。</p> <p>・既習事項の確認を通して自力解決に向けての筋道を立て、自分で問題解決ができたという達成感をもたせる。</p>

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・「小数」「分数」の指導においては、小数を分数で表せるという小数と分数の関係性や、整数と同じように式を立てたり計算ができたことなど、より確かな理解と定着を図っていく。また、小数同士の積の小数点の位置について、形式的な手続きだけでなく、小数に小数をかける意味の理解をさせることで間違いを減らしていくようにする。</p> <p>・「立体と体積」「角の大きさ」では、デジタル教科書だけでなく、具体物を操作することで理解しやすくする。イメージする力や見当をつける力を高め、正しい知識と結び付けていく。</p> <p>・「割合」は、数直線や図で表す指導を徹底することで、正しい立式ができるようにしていく。</p>	<p>・「多角形と円・合同」では、実際に具体物を操作して、図形をイメージする力や正多角形の性質の理解につなげていく。</p> <p>・「割合」「平均」などは、日常生活の中で積極的に活用していくことで、見方や考え方を育てていく。また、日常のデータを授業で扱うことで、それらを活用する力を育てていく。</p> <p>・自分の考えを式にして伝えたり、式から考えを読み取ったりする場面を意識的に設けたり、図や言葉で説明する機会を設けたりすることで、これらの力を伸ばしていく。</p>	<p>・調べたり比べたりする活動を増やすとともに、常に見当をつけたり予想を立てたりしてから取り組むことで、豊かな量感を育て、関心意欲を高めるようにする。</p> <p>・「割合」「平均」などの授業では、日常のデータや他教科の資料などを教材として活用することで、自らの生活と関連させながら学んでいく姿勢を育てていく。</p> <p>・既習事項の確認を通して、自力解決に向けての筋道を立て、自分で問題解決ができたという達成感をもたせる。</p>



1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 昨年の課題に沿って日常生活と関連付けた単元の内容の導入を工夫し、観察や実験等の直接体験を重視した学習を展開した結果、観察や実験に対して意欲的な児童が増え、知識の定着を図ることができた。

(2) 課題

- ・ 抽象的な学習内容、または、観察や実験を行うことが比較的難しい自然現象について、知識・技能の定着が不十分である。
- ・ 活用的な内容で平均正答率が低く、身に付けた知識を生活と関連付けて考え、活用する力が不十分である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第4学年	目標値よりも低い 全国平均正答率より低い 区平均正答率より低い		
第5学年	目標値よりも高い 全国平均正答率より高い 区平均正答率より高い	目標値よりも高い 全国平均正答率より高い 区平均正答率よりも高い (第4学年時)	
第6学年	目標値よりも高い 全国平均正答率よりやや低い 区平均正答率より高い	目標値よりも高い 全国平均正答率より高い 区平均正答率よりも高い (第5学年時)	目標値よりも低い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・「光の性質」「磁石の性質」の正答率が、目標値より大幅に下回っている。 ・虫眼鏡で日光が集められること、磁石は鉄を引き付ける性質があること等の基礎知識を問う問題の正答率が低い。	・「磁石の性質」では、実験結果から磁石の極を判断すること、鉄とアルミニウムを区別する方法を整理し、考察することに課題がある。	・文章中の間違いを指摘する問題や、記述して説明する問題に課題がある。 ・学んだことを活用して問題に取り組んだり、日常生活と関連付けて考えたりする必要がある。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・動植物に関する問題や「物のとけ方」などの実験を伴う問題の正答率が低い。観察や実験をする意義や方法を理解させ、日常生活と関連付けさせて定着を図っていく必要がある。	・知識を活用したり、技能を使ったりして、考察したり表現したりすることが十分ではない。また、得た知識を基に他の事象や生活と関連付けて考える等の活用力が不十分である。	・実験や観察に、興味・関心をもって取り組んでいる。粘り強く問題を解決しようとする力や学んだことを自然の事物・現象や日常生活に当てはめてみようとする力が不十分である。

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### （1）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験や観察を行う前に、方法や注意点についてしっかりと指導し、知識として定着させる必要がある。</li> <li>・重要語句や資料を掲示し、定着を図る。</li> <li>・実験の過程から得られた結果を「どのように記録すると結果が分かりやすくなるか」を考えさせながら、学習に合わせて表やグラフ、図などを適切に用いて記録できるよう指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理科の見方・考え方を働かせられるように、「どのように物事を捉えさせるか」という主な視点や考え方を提示する。</li> <li>・導入では、児童が問題意識をしっかりともてるようにし、その際のイメージや概念などを、結論と意味付けたり関係付けたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童がもつ、自然現象に対する疑問を基に問題作りを行うなど、学習の展開を工夫する。また、単元の導入などでは適切な資料を掲示するなどしていく。</li> <li>・体験的な学習をなるべく多く取り入れるようにするなど、自分事として考えられるようにする工夫が必要である。</li> </ul>

#### （2）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然の不思議さや面白さを知ることができるように、実験や観察などの体験活動を充実させ、知識・技能の定着を図る。</li> <li>・観察・実験の機会や時間を十分に確保することで、実験器具の使い方に慣れ、観察・実験に関する技能を修得させる。</li> <li>・実感を伴った理解の定着を目指し、日常生活との関連を示し、考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予想を立てる際は、既習事項や生活経験から根拠のある表現をさせるようにする。</li> <li>・問題の設定や検証計画の立案、観察、実験の結果の処理、考察の場面などで、あらかじめ個人で考え、その後、意見交換したり根拠を基にして議論したりして、自分の考えをより妥当なものにさせるための場と時間を確保する場を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の導入時には、日常生活と関連付け、観察や実験等の直接体験を重視した内容や学習を展開し、身近に起こっている日常生活の事象と関連付けて授業内容を工夫していく。</li> <li>・学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして、自身の学びや変容を自覚できる場面を設定する。</li> </ul>

1. 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・「英語で書かれた単語の読み・意味理解」の項目は、正答率が高く、曜日や施設、文房具などの単語の読み方や意味を理解しているといえる。
- ・「日常会話の理解」も正答率が高く、名前、日付、スポーツ、can/can'tの発音や意味を理解することができている。

(2) 課題

- ・「短い物語や日常生活の情報」を聞き取り、内容を理解する問題に関しては正答率が低く、聞き取れた単語から内容を推測する力が不足している。
- ・「英作文」では、例文を参考にして、基本的な表現を用いて自分との関係を書く力が不足している。

2. 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果
第6学年	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも高い	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い

(2) 分析（観点別）

① 6年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・聞くことは目標値を上回っている。アルファベットの大文字に関しては目標値を上回っているが、小文字を書くことの正答率が低い傾向にある。	・目標値を若干下回っている。短い物語を聞き概要を捉える問題や、道案内などの日常生活の情報を聞き取る問題の正答率がやや低い。 ・基礎知識を活用して英作文を書く力が低い。	・目標値に近い数値のため概ね良好といえる。

3. 授業改善のポイント（観点別）

高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・「聞くこと」に関しては、身近で簡単な語や表現を理解できるように、十分に音声を聞かせ定着を図るようにする。 ・「書くこと」に関しては、音声十分に慣れ親しませ、音と文字を結び付けられるようにする。 ・アルファベットに関しては、音声十分に慣れ親しませ、音と文字を結び付けられるようにする。	・デジタル教科書や絵カードを活用したり、外国語講師による発声を繰り返し聞いたりするなど、十分に聞く活動を行う。 ・学習した言葉や表現を十分に理解したうえで、活用できるように、外国語講師や友達とやり取りする場面を設定し、表現できる力を高められるようにする。 ・基礎知識を会話文ややり取りに活用し、書く力を高められるようにする。	・児童が聞いてみたい、言ってみたいと思えるような必然性のある目的・場面を設定する。 ・音声や視覚教材を有効に活用し、児童の興味・関心を高められるようにする。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・身近な植物を育てたり動物と触れ合ったりする活動を通して、生き物への関心が高まり、命を大切にすることが芽生えた。校庭の周辺や裏庭の自然環境を活かして、草花遊びや虫の観察、草花を育てるなどの活動ができた。
- ・友達や教職員、学校や地域を支えている人々と触れ合う機会、1・2年の交流の場の設定、夏休みや冬休み等を利用した家庭での手伝い等の活動を充実させたことで、自分達は多くの人に支えられていること、家族や学校の一員であること、自分の成長など気付きが増えた。

(2) 課題

- ・意欲や自信をもって生活を豊かにしたりしようとすることを繰り返し、児童の気付きや思考を共有し、深める授業展開が必要である。

2 授業改善のポイント（観点別）

低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くことができるよう、気付きの発達段階を教師が理解して適切な発問や価値付けをする。また、一人一人の気付きを関連付けて共有化を図る。</p> <p>・生活上必要な習慣や技能を身に付けることができるよう、指導内容の明確化及び学習活動を工夫する。</p>	<p>・身近な人々、社会及び自然を自分との関わりにおいて見付ける、比べる、例えるなど視点をもって捉え、表現できるようにする。</p> <p>・作品を掲示したり、発表の場を設けたりして、自分の表現に活かしたり、互いに相手のよさを認めたりできるようにする。</p> <p>・自分で選択する活動を取り入れ、思考・判断の向上を図る。</p>	<p>・実物や関連図書の紹介や教室掲示をするなど、植物や生き物などが自然と目に触れるようにし、「やってみよう」と思うような環境づくりをする。</p> <p>・様々な人々との関わりを大切に活動を行い、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学ぶことができるようにする。</p>

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・めあてを明確にし、毎時間児童が学習をふりかえることで、意欲の向上につながった。
- ・常時活動で技能の指導を進めたことで、技能の定着につながり、演奏活動に自信をもつことのできている児童が増えた。
- ・リコーダーの吹き口への工夫やパーテーションで感染症対策を行いながら技能を高めることができた。

(2) 課題

- ・毎時間のめあては明確できたが、題材を通しての学習の見通しはもてていない。
- ・技能の個人差があり、技能が高い児童への対応が不足している。
- ・意見の共有や表現的な活動の場面で、学習用タブレットを効果的に活用できていない。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・演奏する時の姿勢や、鍵盤ハーモニカの運指、タンギングなど、一つずつ丁寧に指導する。一人ずつ演奏する場面も必要に応じて設定する。	・音の高さや楽器の音色、大きさのちがいなど、感じ取るめあてを分かりやすくし、発問も工夫する。	・音あてやリズムうち、身体を動かす活動を取り入れることで、音楽を楽しみ、興味・関心をもてるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・常時活動で、よい姿勢や発声等、基本的な技能に必要なポイントを分かりやすく指導していく。 ・技能の習得は、スモールステップ方式で進め、技能に合わせて課題を選択できるように準備する。	・自分の考えをもてるように、思考に必要な音楽の要素を表す言葉や、交流の時に必要な話型の例を提示するなど、言語活動の充実を図る。	・前時のふりかえりを交えながら、学習を進めることで、意欲の向上や継続を図る。 ・子供自身のふりかえり活動を充実させ、次の学習につながる評価や助言を行う。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・常時活動やワークシートを通して、拍の流れやリズム、フレーズ、強弱記号など基礎的な知識の定着を図る。 ・姿勢や発声等の技能の習得に必要なポイントを継続して指導する。 ・個の進度に合わせた学習の充実を図るため、ICTの活用を行っていく。	・タブレットを効果的に取り入れながら、個人やペア、グループの考えを共有し、いろいろな考えのよさを確かめ合っていく。 ・いろいろな考えを、実際に表現して試しながら、対話的によりよい表現を実感できるようにする。	・毎時間のめあてを明確にするだけでなく、題材を通して学習の流れを示し、前時の学習をふりかえりながら、学習の見通しをもてるように工夫する。 ・児童1人1人の演奏や発言に対して、積極的に評価や価値づけ、助言をきめ細やかに行う。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・造形活動の取り組みは意欲的であり、伸び伸びと楽しみながら取り組む児童が多い。
- ・友達と一緒に関わり合っって道具を安全に留意しながら活動する経験を積むことで、様々な材料に出会い積極的に自分の色、形、イメージを表現できる児童が多くなった。

(2) 課題

- ・意欲的に活動する児童が多いが、個人的な能力差やこだわりの強い児童など感情の起伏によって主体的に活動することが苦手な児童もみられる。
- ・技術面でつまずく児童や個人差やこだわりの強い児童に対応できるように、継続して個別指導をする必要がある。また、材料や用具の整備をして児童が活動しやすい環境を整える。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れることができるよう、学習活動や指導順序などを工夫改善する。</li> <li>・並べたり、つなげたり、積んだりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつくったり表したりすることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・形や色などを基に、自分たちのイメージをもちながら、身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に造形的な活動を行ったり、感じたこと、想像したことから、表したいことを見付けたりできるように、児童の発想の広がりや場の設定、学習活動を工夫していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な材料、用具に触れさせたり、児童が関心をもちやすい題材を設定したりする中で、児童が楽しみながら主体的に活動に取り組むことができるように ICT 機器を使って作品例を見たり、実演を交えたりする。</li> <li>・自分たちの作品を見合う活動を通して、よさや面白さを感じ取ることができるようにする。</li> </ul>

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が思いや願いを大切に、児童が取り組みやすい材料や用具を準備する。それらを児童が進んで使い、知識や技能を深めながら、表現を工夫できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な材料や表現方法と出会い、豊かな発想をしながら、思考、判断を深める。そして、形や色などの感じを基に、自分のイメージをもって表すことができるよう児童の発想の広がりに対応する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な材料や用具の体験を行い、さらに楽しんで主体的に活動できるように ICT 機器を使って作品例を見たり、実演を交えたりする。</li> <li>・作品を作る過程で、自然と友達の作品や身近な美術作品を鑑賞し、よさや面白さを感じ取る場を大切にする。</li> </ul>

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・児童が自分の表したいことに合わせて、使いたい材料や必要な用具の特徴を生かせるように授業の準備をする。そして、前学年までの経験を生かしながら、さらに知識、技能を深め、工夫して表せるように環境を整える。</p>	<p>・形や色などの造形的な特徴を基に、児童が自分のイメージをもてるように、様々なテーマや表現方法、材料などを準備していく。そして、児童が思考や判断を深められるように、場の設定や支援の方法など工夫していく。</p>	<p>・児童がこだわりをもって自分の表現ができるように題材の設定の工夫や材料、用具の準備をし、無理のない授業時間の設定など授業計画を立てる。</p> <p>・それまでの造形活動の体験を生かしながら、自分の見方や感じ方を大切にし、さらに自分らしい表現を主体的にできるように ICT 機器を使って作品例を見たり、実演を加えたりする。</p> <p>・自分たちの作品や親しみのある作品などに出会い、よさや美しさに気づき、感じ取れるようにする。</p>

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・既習事項の反復を行ったことで、実技の習得の差が目立たなくなった。
- ・模型を作成したことで、作品作りの順序を見通し、円滑に製作を進めることができた。
- ・日常での課題をふり返ることで、集中して学習に取り組めるようになった。
- ・ICT機器を活用し映像資料を多く見せることで、課題に積極的に取り組む児童が増えた。

(2) 課題

- ・生活経験に差があるため、学習内容の定着にかかる時間に差があった。
- ・手先を使うことが苦手な児童がいるため、作業の様子や動画を見せながら指導する。

2 授業改善のポイント（観点別）

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の際は、道具の扱い方の基礎の学習に重点を置き、必要な技能を習得させるとともに、既習事項の反復を行う。</li> <li>・基礎基本に時間をかけ、最低限の技術を身に付ける。</li> <li>・個別指導を通して、基礎基本の定着を図る。</li> <li>・家庭科学習ノートを有効的に活用する。</li> <li>・継続的に反復して学習することで、学習を確かなものにする。</li> <li>・家庭科用語の定着を図るため、用語の確認を丁寧に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手本や他の児童の作品を提示することで、多様な考えや工夫に触れさせる。</li> <li>・製作準備として、紙や布で模型を作ることで完成品を想像し、計画を立てやすくする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の普段の生活から問題意識をもたせ、課題解決に向けた学習を行う。</li> <li>・電子黒板を活用して指示・内容を明確にし、意欲の継続を図る。</li> <li>・映像や動画を見せることで、学習内容の汎用性を児童に伝える。</li> </ul>



1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・自己の課題を理解して運動に取り組むことで、運動に対する意識や取り組む姿勢の向上が見られた。
- ・ハッスルタイムや休み時間に短縄跳びや大縄跳びをする時間を設けたことで、意欲的に縄跳びに取り組む児童が増えた。

(2) 課題

- ・日常の運動経験の差が、体育での技能差につながっており、特に、持久力に課題がある。体育の授業を中心に持久力を高める運動を取り入れていく必要がある。
- ・運動への関心や意欲、技能に個人差が見られ、学年が上がるにつれ顕著に表れている。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各領域の遊びの特性に応じ用具器具の使い方やルールを知り、安全に行えるようにする。</li> <li>・準備運動の中に、リズム遊びや鬼遊びなどを取り入れ、楽しみながら、身のこなし方や持久力、様々な運動感覚を養っていく。</li> <li>・体育朝会やハッスルタイムと連携して授業を行う。</li> <li>・基本的な動きが身に付くようICT 機器を用いる事で、動き方の視覚的な理解を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習中に、どうすれば特性に合った運動が上達するかについて考える時間を設定する。</li> <li>・運動遊びを工夫できるように、楽しみ方を教師から提案する。また、自己や友達が考えた楽しみ方を共有し、自己に合った楽しみ方を選択できるように場を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の導入では、これから学習していく内容の概要が視覚的に分かるような学習資料を用意する。</li> <li>・簡単なゲームや遊びを導入時に取り入れ、楽しみながら学習を進められるような授業を展開していく。</li> </ul>

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各領域の運動の特性に応じ用具器具の使い方やルールを知り、安全に行えるようにする。</li> <li>・準備運動の中に、体ほぐしの運動、多様な動きをつくる運動を取り入れ、持久力をはじめ、様々な運動感覚を養っていく。</li> <li>・体育朝会やハッスルタイムと連携して、走る運動動を行うようにする。</li> <li>・ICT 機器を用いる事で、グループで動き方の確認をし、教え合いながら技能を身に付けられるよう指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の運動の課題を見付けさせるために、自己の能力の課題に適した運動課題を見付けられる場の設定を工夫する。</li> <li>・課題解決の方法や活動を工夫させるために、教師が工夫の例を提示したり、友達の提案を広める時間を設定したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の導入では、これから学習していく内容の概要が視覚的に分かるように資料を用意し、児童の関心が高まるような手立てとする。</li> <li>・友達とペアやグループを組むことで意欲的に取り組み、きまりを守って、誰とでも仲よく運動をしようとする意欲を高める。また、友達同士で認め合える環境や場を設ける。</li> </ul>

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"><li>・各領域の運動の特性に応じ用具器具の使い方やルールを知り、安全に運動が行えるようにしていく。</li><li>・準備運動の中に、補助運動を取り入れ、年間を通して、様々な運動感覚を養っていく。</li><li>・体育朝会やハッスルタイムと連携して、持久力を高める運動を中心に行うようにする。</li><li>・ICT 機器を用いる事で、正しい動き方を理解し、技能を身に付けられるよう指導する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・自己やグループの課題に沿って練習の場、技や技術を確認する時間を設定する。</li><li>・課題解決の方法や活動を工夫させるために、教師が工夫の例を提示したり、友達の提案を広める時間を設定したりする。</li><li>・自己やグループの特徴に応じた動き方を知り、その特徴に応じた取り組み方や作戦等を考えるようにする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・単元の導入では、これから学習していく内容の概要が見えるような学習資料を用意する。毎時間、自分のめあてを設定し、見通しをもって学習活動に取り組めるようにしていく。</li><li>・自分事として考えることができるような学習活動を行っていく。また、友達同士で認め合いアドバイスし合える環境を作り、課題をもって取り組めるようにしていく。</li></ul>